

4/2(朝日)



学術会議法案 提出見送り

首相、「丁寧な議論」指示

政府は20日、日本学術会議の会員の選り方などを見直す学術会議法改正案について、今国会への提出を見送ることを決めた。論行するひと意識や世論の強じ反対を招いたと判断した。今後のある方は、学術会議と協議する。▼3面=強硬姿勢も

国から分離含め協議へ

岸田文雄・副官長、法務省担当する後藤茂之・経済再生相から法案提出見送りの報告を受けた後藤茂之・経済再生相(右)と、永田町・竹花被説明室で記者団に対し「学術会議と一層に議論し、早速に結論を得るように」(後藤氏)と云ふ旨(左)述べた。後藤氏は首相への報告を見たときに、「組織運営の問題に答える一方で、新会員を決める際に外部の有識者による選考諮問委員会」を設け

(透明性が確保できる最

る)などだが社。

「これに対し、学術会議は、会員選考に政府の意向も述べ、組織見直しの必要性を強調した。「民間法人とする素を組上に載せ、再度議論を進めたう」とも述べ、学術会議を國の機関から切り離すことを含めて譲渡する考え方を示した。

学術会議の梶田隆章会長は20日夜、法案提出を見送る判断について、「歓迎」した。日本学術会議が提案したごく簡単な改定案(18日の総会で)、政府に法案提出の見送りを求める勧告を会員一致で承認して

相が学術会議の推進する会員候補者の任命を拒否した後、理由の説明がない」とも強く批判していた。今

月18日の総会では、政府に法案提出の見送りを求める勧告を会員一致で承認して

いた。

政府は28日に閣議決定し、今国会で審議する構えだつたが、野党からの批判もあり、十分な審議時間がとれないとの見方が出いでた。(同報系、轟就久郎)

